

差別のない世界へ

二日市小学校五年 江越 百花

「チビが、あっちいけ。」

私は、みんなと比べて少し背が低いことで仲間外れにされたことがあります。その時、側にいた友達が、

「身長なんて関係ないよ。みんなで仲良く遊ぼうよ。」

と、私をかばってくれました。その友達の言葉が今も心に残っています。

この体験をきっかけに私は、『次は私が、いじめられている人をかばうんだ』と心に決めました。

『いじめられている人を見て、見ぬふりをするのもいじめ』という言葉をだれでも聞いたことがあると思います。私は初めてこの言葉を聞いた時、意味がわかりま

せんでした。でも、いじめられた体験を通して、今は、いじめに対する見方が大きく変わりました。

いじめられている時、私は『誰でもいいから助けて』と強く思っていました。そんな時に何も言わず、ただ私を見ている人たちがとても冷たくて悲しく感じました。それは、『心のいじめ』なんだ、そして『いじめられている人をかばうことが、本当の優しさなんだ』と改めて気づくことができました。

最近のニュースで、アメリカで黒人というだけで殺されてしまったという話を聞きました。その時私は、『同じ人間なのにどうしてそんなことをするのだろう』と思いました。

でも、よく考えてみると、このことは、私が仲間外れにされたことと同じことではないかと思いました。皮ふの色が黒いというだけで人を差別することは、背が低いという理由だけで仲間外しをすることと同じです。

そして、そんな行動がエスカレートして殺人につながるような事件が起こったんだと思います。

私は、その後、友達があだ名で呼ばれていた時、その友達はみんなの前でいっしょに笑っていたけれど、私には無理をして笑っているように見えたので、

「本当の名前じゃないんでしょ!! 本人がいやな気持ちにならないような名前です。であげてよ。」

と、呼んだ人に言うことができました。

いじめや差別は、一人では解決できません。一人ひとりが『みんなちがっていい』『ちがいで人を傷つけない』という優しい心をもつことが大切だと思います。みんなで差別のない世界をつくりたいです。